

行政事業レビューシート (環境省)						
予算事業名	湖沼水質保全対策等調査費		事業開始年度	平成10年度以前 (現事業はH19年度)		作成責任者
担当部局庁	水・大気環境局		担当課室	水環境課		水環境課長 森北 佳昭
会計区分	一般会計		上位政策	大気・水・土壌環境等の保全		
根拠法令 (具体的な条項も記載)	湖沼水質保全特別措置法 第37条		関係する計画、通知等	指定湖沼における水質保全対策については、国は、地方公共団体が湖沼水質保全計画に基づく事業を円滑に実施できるよう、助言その他必要な援助を行うように努めることとされている。		
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	琵琶湖等の代表的な湖沼を対象に、水質汚濁メカニズムの解明、水生生態系及び水利用上の障害を発生させない適切な窒素・リンの管理手法の検討を行い、湖沼水質保全施策の高度化を図り、湖沼の水質保全の一層の推進を図ることを目的とする。					
事業概要 (5行程度以内。別添可)	①湖沼の水質汚濁メカニズム解明、面源からの負荷量管理に関する検討、経済的手法の検討及びこれらの調査検討を踏まえて湖沼の水質保全施策の更なる高度化を図る。 ②湖沼において、窒素、リンが植物プランクトンの種組成に及ぼす影響等のメカニズムの解明、水生生態系への悪影響及び水利用上の障害発生を未然に防止するための窒素・リンの管理手法の検討及び効果的な水環境保全対策を策定。					
実施状況	①琵琶湖において、湖沼の生態系が湖沼水質に与える影響調査、難分解性有機物による湖沼水質への影響調査、面源からの汚濁物質の流出機構の解明や実負荷量の把握、湖沼の水質汚濁メカニズムのモデル化の検討及び汚濁負荷量の管理手法を検討。検討会を4回開催。 ②窒素、リンの経年変化と植物プランクトンの関係の整理、水使用上問題となった植物プランクトンの整理、想定した条件下において藻類の増殖を確認する試験を実施。また、窒素・リン比、窒素、リン濃度の植物プランクトンの種組成に及ぼす影響等のメカニズムの解明、水生生態系への悪影響と水利用上の障害の発生を未然に防止するための窒素・リン管理手法の確立を図ることを目的とした調査、検討計画を立案。検討会を2回開催。					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	130	78	63	77	186
	執行額	94	70	43		
	執行率	72.3%	89.7%	68.3%		
	総事業費(執行ベース)	94	70	43		
自己点検	支出先・用途の把握水準・状況	・学識経験者からなる検討会を設置し、業務の方向性、手法等について、助言・指導を受けて業務を遂行。 ・担当職員が検討会に出席し、また、事業の進捗や実施方法等について請負事業者と綿密に調整しながら、事業を進めている。				
	見直しの余地	・国が代表的な湖沼を対象に水質汚濁メカニズムの一層の解明、水生生態系及び水利用上の障害を発生させない適切な窒素・リンの管理手法の検討を行うことにより、その成果は広く我が国の湖沼の一層の水質保全施策に活用されるものとなり、効率的。 ・また、その成果により湖沼のもつ様々な課題に対応することが可能であると考えられ、我が国の一層の湖沼水質保全に有効。 ・琵琶湖等湖沼水質保全対策高度化推進調査は平成22年度で事業終了。 ・今後も引き続き、競争性の高い調達に努め、予算の効率的、効果的な執行に努めていく。				
予算・監視・効率の所見率	一部改善 (執行実績を勘案するとともに、長期に渡り継続して実施していることから、事業内容を重点化すること等により、予算額を削減すべき。)					
補記						

環境省
43百万円
事業の企画・立案

【一般競争入札】

A (株)日水コン

30百万円

水質汚濁メカニズムのモデル化
の検討

【総合評価入札】

B (株)建設技術研究所

13百万円

窒素・りん管理手法の確立を図る
ことを目的とした調査、検討計画
の立案

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
行っているかについて補
足する)
(単位:百万円)

